



岐阜陸上競技協会広報

第9号

令和元年8月1日発行

一般財団法人 岐阜陸上競技協会

事務所／〒502-0841 岐阜市学園町3-49 仁科ハイツA102

TEL (058) 294-6494 FAX (058) 294-6491

E-mail gifurik-jim@rhythm.ocn.ne.jp

令和元年 ジャパン・パラ陸上 日本学生対校選手権岐阜開催!



第84回岐阜県陸上競技選手権大会男子4×100mリレー決勝より

岐阜陸上競技協会挨拶・報告 2頁

- ① 岐阜陸上競技協会 会長
- ② 岐阜陸上競技協会 専務理事

2019岐阜陸上競技協会活動計画 3頁～13頁

- ① 委員会報告 委員長
- ② 中体連 専門委員長
- ③ 高体連 専門委員長

地区陸上競技協会 14頁～16頁

- ① 岐阜地区陸上競技協会 理事長
- ② 東濃地区陸上競技協会 理事長
- ③ 西濃地区陸上競技協会 理事長
- ④ 中濃地区陸上競技協会 広報委員
- ⑤ 飛騨地区陸上競技協会 会長 副会長



平成から令和へ「陸上競技への情熱をもって」

一般財団法人岐阜陸上競技協会 会長 尾藤 義昭

昨年度は全協会員のご協力のおかげで、岐阜陸協として初めて国際大会の競技運営を経験することができました。予定された国際

的な手順に従い競技を進行する岐阜陸協の姿に感動すら覚えました。岐阜陸協が一枚岩となって取り組むことができた見事な大会運営でした。本当にご苦勞様でした。

また、第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会を含む国際大会や、全国大会において岐阜県出身の選手の活躍は大変心強く思いました。県内で競技している小学生、中学生、高校生諸君にとって先輩たちの活躍は希望であり目標となります。国体や、都道府県駅伝などの成績が問われることもあります。選手の強化、普及は一日で成せることではありません。指導者

間の協力と切磋琢磨が必要です。協会員の温かい応援をお願いしたいと思います。

さて、今年元号が平成から令和に移りました。平成最後の年に国際大会を経験しましたが令和元年にはWorld Para Athletics公認2019ジャパンパラ陸上競技大会、天皇賜杯第88回全日本学生対校陸上競技選手権大会を開催することになりました。2020東京オリンピック・パラリンピックを控えどの大会においても記録の更新が期待されます。協会員の皆さんにはご苦勞をおかけいたしますが2大会成功に向けご協力をお願いします。

最後になりましたが、この度の理事の改選で会長として2期目を迎えることになりました。皆様のご協力をもって一般財団法人岐阜陸上競技協会の発展に寄与できたらと思っています。よろしくお願い申し上げて挨拶させていただきます。



「2019年度を迎えて」

一般財団法人岐阜陸上競技協会 専務理事 黄倉 寿雄

本年度は本協会理事の改選年でした。退任されました旧理事の皆様には任期中のご尽力に心より感謝申し上げますとともに、協会員の皆様には

2019年度においても相も変わらずご協力をお願い申し上げます。

近年、少子化にもかかわらず昨年の岐阜陸上競技協会(以後岐阜陸協)の登録者数は大きな減少もみられず、言い換えれば本県の陸上競技の普及がなされているとも言えます。しかしながら、一方では、協会員の高齢化も進んでいます。豊富な経験や、高い審判技術を保持した協会員の高齢化が進んでいます。第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会では岐阜陸協の競技運営力は高く評価されました。なによりも優れていたのは何事にも期待に応える対応力でした。工夫と協力で問題を解決しながらの競技運営力は素晴らしく、経験豊かな競技役員と行動力溢れる審判員との協力・連携があったからこそと思います。本協会は、若い世代の行動力が結びつくことが今年の課題です。よろしくお願いします。

さて、昨年の第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会(以後、アジアジュニア陸上)開催に続き、本年度は、7月にWorld Para Athletics公認2019ジャパンパラ陸上競技大会(以後、ジャパパラ)、9月に天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権大会(以後、日本インカレ)が岐阜メモリアルセンター長良川競技場

で開催され、この2大会の競技運営を岐阜陸協が担当することになっています。それぞれに、審判編成も終わり準備が進められています。アジアジュニア陸上同様、大会成功のために全協会員のご協力をお願いします。

日本インカレではオリンピックを狙う選手の活躍と、大地を揺るがす各大学の対校戦の迫力を!そして、ジャパパラでは個々の障がい乗り越えて、競技を通し自己の可能性に挑戦する姿を!県民の皆さんに是非体験してもらいたいと思います。

また、この2大会は2020東京オリンピック、パラリンピックの選手選考に影響を持つ重要な大会です。選手たちは熱い思いで岐阜メモリアルセンター長良川競技場を目指してきます。岐阜陸協の総力を挙げて大会を迎えたいと思います。



ジャパンパラリンピック主任説明会より

専門委員会報告

総務委員会総括

「2018年度の中体連取り組み総括」

4月6日春季記録会より2019年度の競技会が始まりました。28日には尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンが行われ、高橋選手のニックネームから第Q回記念大会となりました。多くの招待選手と共に、市民ランナーが快晴の長良川河畔を駆け抜けました。昨年度より採用されたブロック別スタートも定着し、ランナーの渋滞緩和に効果を発揮しました。来年度も第10回の記念大会となります。問題点を洗い出し、さらに愛される大会となるように改善していきます。

翌週には全日本薬学生大会、翌週には中部実業団大会、翌週には東海学生大会、翌週には県高校総体、翌週には中学生学年別大会と障がい者大会、翌週には小学生選手権が行われ、これらの過密な大会日程の合間には各地区陸協の大会が組み込まれ実施されております。岐阜陸上競技協会審判員の献身的な協力により、大会が支えられていることを実感いたしました。2日以上連続して行われる大会も4大会あり、2日目の審判員は紺色のポロシャツを着ることも定着しており、組織の連帯意識の強さを感じます。

今年度は7月に2019ジャパンパラ陸上競技大会が、9月には第88回全日本学生対校陸上競技選手権大会が本県で開催されます。大会運営が、指導者の選手強化へのエネルギーと時間を奪ってしまわないように、岐阜陸協の体力に合った、無理のない年間の競技会開催計画は非常に重要な課題ですが、過去の全国大会や国際大会の運営実績を信じ、また、全国大会開催が本県の陸上競技の活性化に大きな影響をもたらしてくれることを信じ、大会の成功に向かって進んでいきます。



日本陸連中学優秀選手表彰・前田海輝選手(中津川市立坂本中) 岐阜県陸上競技選手権大会にて

1 理事会・評議員会

月日	曜日	会議	時間	場所
5月19日	日	第1回理事会	10:00~12:00	長良川競技場 会議室
6月16日	日	定例評議員会	10:00~12:00	長良川競技場 会議室
8月11日	日	第2回理事会	10:00~12:00	長良川競技場 会議室
12月8日	日	第3回理事会	13:00~15:00	長良川競技場 会議室
3月7日	土	第4回理事会	13:00~15:00	長良川スポーツプラザ

2 委員長会議(必要に応じて開催)

3 栄章関係

月日	曜日	会議	時間	場所
11月初旬		栄章候補提出依頼		
12月8日	日	栄章審査会	10:00~12:00	長良川競技場 会議室
2月中旬	日	受章者案内発送		
3月7日	土	栄章表彰	審判講習会の前	長良川スポーツプラザ

※栄章受章者集合写真撮影…業者に依頼

4 競技会要覧関係

月日	曜日	会議	時間	場所
12月14日	土	第1回競技会要覧会議	13:00~15:00	長良川競技場 会議室
1月25日	土	第2回競技会要覧会議	13:00~15:00	長良川競技場 会議室
		2回から3回校正		
3月初旬	土	配布・販売開始		

5 その他の主な会議

月日	曜日	会議	時間	場所
4月21日	日	第9回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン走後委員会	10:00~11:00	長良川競技場 会議室
10月19日	土	清流都市対抗駅伝主任者会議	午前	岐阜都ホテル
		監督会議・開会式	午後	岐阜都ホテル
3月22日	日	第10回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン主任者会議	9:30~11:30	長良川競技場 会議室

- ・アジアジュニア選手権開催に伴う業務・会議
- ・平成31年度日本陸連地域活性化助成金使用方法決定と申請・報告
- ・地区陸協との連携
- ・東京マラソン準エリート選手の決定と推薦
- ・競技会日誌・各大会審判業務反省要望のとりまとめ
- ・日本陸連、県、県教育委員会、メモリアルセンター、県体協、等 連携
- ・補助金申請、報告、会場使用申請、その他
- ・各種会議の招集



田口章表彰・大垣西部中(前列) 岐大付属中(後列) 岐阜県陸上競技選手権大会にて

(委員長 内田 匡俊)

財務委員会

【2019年度のスタート】

小学生の登録が始まって2年が経ちました。岐阜陸上競技協会の登録者数は、表の通り、毎年、9,000人前後で推移しております。

昨年の、第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会を含め、岐阜の地においても、中学総体、高校総体、国体のような全国規模の大会が多く開催されるようになってきました。今年も、天皇陛下御即位記念2019ジャパンパラ陸上競技大会

(7月20,21日)、天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会(9月12～15日)が長良川競技場で開催されます。多くの観戦者の来場を心待ちにしております。また、これを機会に、陸上競技ファンの増加に貢献できる岐阜陸協となるよう、少年期、青年期の競技普及活動にも力を入れていきたいと思ひます。今後とも、会員の増加(まずは1万人突破を目標)へとつながるよう、多方面からのご支援、ご協力をいただきたく存じます。よろしくお願いいたします。

岐阜陸上競技協会 登録者数推移

	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
	男/女	計	男/女	計	男/女	計	男/女	計	男/女	計	男/女	計	男/女	計
一 般	892	1046	864	998	839	973	802	936	848	977	860	994	900	1047
	154		134		134		134		129		134		147	
大学生	201	289	202	273	234	304	293	375	257	345	310	414	296	400
	88		71		70		82		88		104		104	
高校生	1410	2112	1422	2167	1511	2251	1463	2174	1453	2163	1397	2112	1429	2149
	702		745		740		711		710		715		720	
中学生	2061	3771	2084	3800	2074	3850	2084	3800	2193	4139	1992	3760	1908	3666
	1710		1716		1776		1716		1946		1768		1758	
小学生	2016年から小学生登録(4年生以上)を開始、2017年から全学年登録。								491	987	879	1725	896	1724
									496		846		828	
合 計	4564	7218	4572	7238	4658	7378	4642	7285	5242	8611	5438	9005	5429	8986
	2654		2666		2720		2643		3369		3567		3557	

(委員長 奈波 宏和)

審判委員会

【2019年度のスタートにあたって】

1 はじめに

2019年度も例年同様順調にスタートができたと思ひています。競技会開催に向けての準備ありがとうございます。今年度も毎週のように各地で行われる記録会や各大会を確実に、的確に、問題なく競技会運営をしなければなりません。さらに7月20、21日のジャパンパラと9月12～15日の天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)を成功させなければなりません。東京パラリンピックに向けての大会今年度の学生王者を決める大会を岐阜で開催します。少し大変なことかもしれませんが、今まで大きな大会を経験し、各団体からお褒めの言葉を多くいただききた岐阜陸協の審判活動には大きな問題はないと考えています。頑張りましょう。

2 世界で認められた岐阜県の審判員!

今年度も、正村菊男(岐阜地区)馬場保(西濃地区)上野悟一郎(中濃地区)山内孝次(東濃地区)桑原宏之(飛騨地区)郷直人(高体連)宇佐見成司(中体連)を中心に各大会の審判編成を行うだけでなく、審判育成を行なっています。

今年度も毎年同様、毎週のように県内各地で競技会が行われます。どの大会でもできる限り早めに編成を行い、審判依頼を出せるように準備をしていきます。審判依頼が届きましたら、競技会審判をよろしくお願いいたします。

3 今年度の主なルール修正と競技運営上の変更及び改良点【国際】

- ・リレーで認められる交代人数(4名の交代)→※国内は2名のまま
- ・競歩(ペナルティゾーンの設定:旧ピットレーン)…緊急改定(国内も適用)
- ・フィールド競技での許される試技時間(30秒→1分)…緊急改定(国内も適用)

【国内】・競技中に選手が重篤な状態になったとき転倒や意識混濁、疾病等により明らかに通常でない場合は助力としない

- ・ハンマー投、円盤投の囲いの明確化(ハンドブック記載)

- ・日本記録として認められる種目の追加

○競技運営上の変更及び改良点

①スタートチームの基本動作の一部変更

(フットプレートの確認、不正スタート選手への告知)

→出発係が確実にみる。

②不正スタート時の対処行動

不正スタートを告知するのは、スターターがスタート用スピーカーを通して口頭で行う。「◇レーン、不正スタートです。」

→出発係は、それに合わせて赤黒カードを提示する。(混成競技の1回目は黄黒カード)

◎イエローカード、レッドカードの提示は審判長が提示する。

◎グリーンカードの提示、注意は出発係が行う。

4 その他

①S級公認審判員の昇格基準における年齢を引き下げます。
60歳から55歳となりますが、条件はこれまで通りです。審判手帳の管理を確実にお願いします。

(毎年の登録番号、審判講習会、審判活動の記録の記載など)

②2019世界リレーについて(5/11、2 横浜:日産スタジアム)

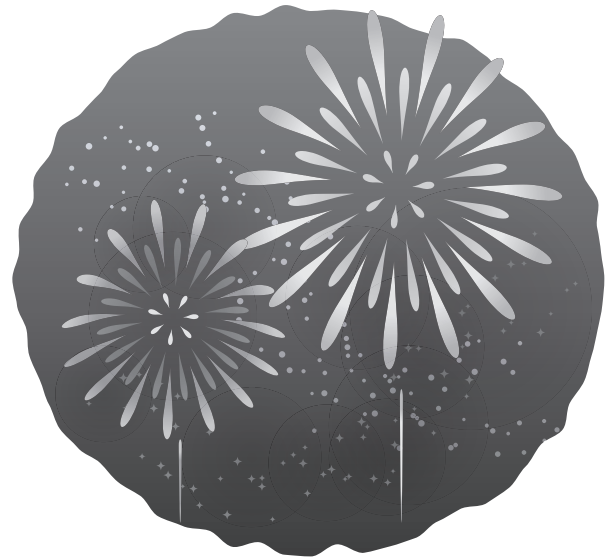
(男・女)・4×100・4×200・4×400

(混合)・4×400・リカバリーリレー(2×2×400)・ハードルシャトルリレー



大会開催前主任者会議・岐阜県陸上競技選手権大会より

(委員長 脇田 篤実)



競技委員会

新競技委員長として

本年度は組織の改編があり、用器具委員会が競技委員会に編入されました。何も分からず手探りの状態での取り組みになりましたが、今まで以上に協会内の他委員会や、外部団体との連携を密にしながら岐阜県の陸上競技がレベルアップでき、何より陸上競技が楽しい競技であると思ってもらい、少しでも競技をする人口が増えていくように活動していきたいと思っています。皆様のご理解とご協力をお願いします。

2019年度主要競技会日程

		日本陸連 等	中部・東海	岐阜陸協 他	高体連 中学生のみと中体連	岐 阜	西 濃	中 濃	東 濃	飛 騨	
4月	6 土			春季記録会	星ヶ台 長良川						土 6
	7 日										日 7
	13 土			澤田記念・春季陸上	長良川・補助						土 13
	14 日	日本選手権50km競歩 金栗記念選抜中・長距離	石川 県民総合(熊本)								日 14
	20 土	出雲陸上 TOKYO Combined Events	浜山(島根) 駒沢(東京)								土 20
	21 日	長野マラソン 兵庫リレーカーニバル	長野 ユニバー記念(兵庫)								日 21
	27 土	堀田記念陸上	広域公園(広島)								土 27
	28 日	高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン		岐阜							日 28
	29 月									春季講習会(中山)	月 29
	30 火			スポーツカーニバル	長良川						火 30
5月	1 水					高校総体地区予選 (長良川)					水 1
	2 木										木 2
	3 金	静岡国際陸上	エコパ(静岡)				高校総体予選(浅中)	高校総体予選(中池)	高校総体予選(中津川)	春季記録会兼 高校総体地区予選 (中山)	金 3
	4 土	ゴールデングেমズinのべおか	延岡(宮崎)								土 4
	5 日	水戸招待陸上	Kスカ水戸(茨城)	全日本業学生	長良川						日 5
	6 月	本南道孝記念	セゾンスピリッツ(長崎・大崎)	岐阜マスターズ	星ヶ台		強化普及記録会(浅中)				月 6
	11 土	IAAF世界リレー	横浜国際総合(神奈川)	中部実業団対抗	長良川						土 11
	12 日	仙台国際ハーフ	宮城								日 12
	17 金			東海学生対校	長良川						金 17
	18 土										土 18
6月	19 日	ゴールデングランプリ 日本選手権10000m	セゾンスピリッツ(長崎・大崎)								日 19
	24 金					高校総体県予選(長良川)			ジュニア記録会 (星ヶ台)		金 24
	25 土										土 25
	26 日										日 26
	1 土	布勢スプリント	布勢総合(鳥取)	中学学年別(浅中)							土 1
	2 日			障がい者大会	長良川						日 2
	8 土	日本学生個人(7~9) 日本選手権混成	平塚(神奈川) 長野市立(長野)				中学総体(浅中)	中学総体(美濃・中池)	中学総体(星ヶ台) 高校総体(中津川)		土 8
	9 日	U20日本選手権混成		小学生選手権	長良川						日 9
	15 土						中学総体(長良川)	西濃選手権(浅中)	中学総体(可茂・中池)	高山市中学・高校対抗 高山市民28"・ウエーブ (中山)	土 15
	16 日										日 16
7月	21 金			東海高校総体	エコパ(静岡)					中学総体(中山)	金 21
	22 土										土 22
	23 日										日 23
	27 木										木 27
	28 金	日本選手権	博多の森(福岡)			岐阜県選手権 定通総体	長良川・補助				金 28
	29 土										土 29
	30 日	サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道	小学生交流・交歓陸上	浅中						日 30

[illegible]

普及委員会

[2019年度のスタート]

1 新種目が導入されました

今回は、今年から新しく変わる2点について報告したいと思います。

まず一点目は、今年から小学生の全国大会では、コンバインドA(走り高跳び、80mH)とコンバインドB(走り幅跳び、ジャベール投げ)が実施されるということです。これに伴い、岐阜県小学生陸上競技選手権大会や全国小学生陸上競技交流大会岐阜県予選会でも、コンバインドA、Bが実施されます。これらの種目が実施されることになったのは、小学生の時期はいろいろな種目に挑戦して欲しいという願いがあるようです。コンバインドA、Bでは、それぞれの種目の記録を点数化し、合計得点が多い方が上位になります。得点表は、日本陸連のホームページに載っていますので、ぜひ一度ご覧ください。この得点表を見ると、走り高跳びで1m00cmの得点は688点で、1m20cmになると919点と一気に得点が上がります。そのため、コンバインドAは、走り高跳びの成績が順位に大きく影響をしそうです。また、80mHは技術が必要です。2種目とも練習を積まないと参加しにくいようです。それに比べると、コンバインドBは、走り幅跳びとジャベール投げのため、それほど練習を積まなくても参加しやすそうです。ぜひ、今回の変更をきっかけにして、小学生のみなさんには、いろいろな種目に挑戦して自分の新たな可能性を発見してもらいたいと思います。

記録・情報処理委員会

[2019年度スタートにあたって]

1 はじめに

2019年度から2年間、また記録・情報処理委員長としてお世話になります。今年度は7月のジャパンパラ、9月の日本インカレと大きな競技会が続きます。昨年のアジアジュニアの経験を活かした競技会運営ができれば心配ないと思っていますが、準備を怠らず、慢心することなく取り組んでいきましょう。

2 全国大会岐阜開催に向けて・楽しみながら審判活動を!

私事ですが、7月のジャパンパラでは、日本パラ陸連の立場で招集所での審判活動となります。副委員長、情報処理部長、記録部長を中心にパラの独自ルールや世界記録、アジア記録の申請など今までに経験したことのないことを体験して、“楽しみながら”審判活動をしていただきたいと思います。というのも、私自身が2017年にロンドンで開催された世界パラ選手権での審判活動の際に複数の外国人審判員からEnjoy?とよく聞かれました。日本人はマジメな(難しい)顔をして審判をしてしまいがちです。今まで審判を楽しむなんて全く考えていませんでしたが、我々自身が楽しんで笑顔でいないと知らないうちに選手へプレッシャーを与えてしまうなど、マイナスな面もあるんだと痛感しました。選手を温かく迎え入れ、笑顔で送り出す。ジャッジはもちろん厳正に行うべきですが、そんなことも意識して今後も取り組んでいけたらいいなと思っています。笑顔は世界共通という言葉もあります。ジャパンパ

2 学校・クラブの二重登録が承認されました

二点目は、今年から学校とクラブの二重登録を認めるということです。これは、特に中学生で大きな変更になりそうです。今までは中学に陸上競技部がない学校では、陸上の大会に参加しにくい面がありましたが、これからはクラブチームで大会に参加することが可能となり、今までよりも大会に参加しやすくなります。ただし、中体連の全国大会に参加するためには、所属する中学校から大会に申し込みをする必要がありますので、注意が必要です。早速、クラブチームで大会に参加する選手が出てきました。今回の変更により、より多くの中学生のみなさんに陸上競技の大会に参加して欲しいと願っています。また、今年も普及を目的として練習会が各地区で実施されます。ぜひ練習会にも積極的に参加していただきたいと思います。詳しい日程等は、各地区の普及委員にお問い合わせください。



全国小学生陸上競技交流大会 岐阜県予選大会・100m決勝より

(委員長 岸 栄二)

ラでも外国人競技者が参加予定です。いろんな立場で参加される全ての人が、一人でも多く笑顔で活動している姿が見られると良いなと思います。

3 課題克服に向け力を合わせて

新体制となった最初の年度です。課題も多く見つかると思いますが、みんなで乗り越えていきましょう。平日も仕事があり、土日まで働き詰めで大変だと思いますが、お互いに助け合い、うまく休みながら審判活動を楽しめる1年にしていってもらえたらと思います。今年度も例年以上にやる事が多く、皆さんの助けが必要です。今年度もよろしくお願いいたします。



アジアジュニア岐阜大会より・記録・情報スタッフ

(委員長 山下 和行)

女性委員会

【2019年度の活動方針・計画】

本年度の目標…託児室の充実と女性審判員の増員を図る

1 託児室の開設

岐阜県登録者(審判・競技者、男女共)の小学生未満の幼児を対象

2019年度 託児室開設予定競技会

(5競技会8回、長良川競技場のみ)

4月30日(祝) りふスポーツカーニバル

5月11,12日(土日) 中部実業団対抗陸上

6月29日(土) 岐阜県選手権

7月6,7日(土日) 岐阜県選手権

8月10日(土) 強化記録会

11月4日(休) 秋季記録会

2 女性委員会開催

女性審判員の増員、養成の広報活動

女性競技者の支援

女性委員会の2019年度の活動としては、上記2点を中心に活動を進めていきたいと考えています。平成25年度に託児室を開室し今年度で7年目になります。託児室があるということで審判を安心してできるというご意見もあります。本年度もさらに託児室開設の充実を図りたいと考えています。子どもたちはここで友達となり、毎回仲良く遊んでいます。子どもたちは外遊びが大好きです。そこで今年度は保育士さんや学生ボランティアの協力も得て子どもたちと陸上競技につながるような遊びも入れていこうと考えています。

まだ利用はありませんが、競技者の方からの託児依頼にも答えたいと考えています。

その他の事業として女性審判員の増員です。少しでも審判に興味がある方参加してください。また周囲の方をお誘いください。



2019 りふスポーツカーニバル託児室より

(委員長 浅野 美津子)

医事委員会

平成27年に立ち上がった医事委員会は、5年目を迎えました。事業計画に沿って着実に活動していきたいと思っています。

4月には、例年どおり陸協主催大会について、看護師派遣を岐阜スポーツドクター協議会に申請しました。先般の「りふ清流ハーフマラソン」においては、救護本部と連携し、救護活動の一翼を担いました。大きなトラブルはありませんでしたが、トレーナーの救護所への配置など救護体制との関わりについては、検討していきたいと考えています。6月2日の全国医務部長会議では、第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会において日本陸連と共同実施したトレーナー活動の報告を行いました。岐阜県の取り組みをPRする機会になり、今後の励みにもなりました。

主要活動である「トレーナールーム」開設及び「スタジアム救護」活動は、7月の岐阜県陸上競技選手権大会を予定しています。さらに、茨城国体では、強化委員会と連携し合宿時のトレーナー派遣、本大会でのトレーナー帯同など選手が万全の体制で競技できるよう支援していく予定です。

この4年間でトレーナー活動については、計画的に日本陸連公認トレーナーを養成するなどし、スタッフも充実し、根付いたものになってきました。課題は、医師・救命救急士など医療専門職の委員会への参画を行うことです。ドーピングや栄養指導・傷害予防などについては、医療専門職の関わりが不可欠です。一人でも参画していただき、活動の幅を広げていきたいと考えています。

最後に、今年も「医事委員会」の活動をご理解いただくとともに、あらゆるご支援とご協力をよろしくお願いします。



トレーナールーム・アジアジュニア岐阜大会より

(委員長 河島 正弘)

広報委員会

広報9号 2019年度 広報委員会事業計画報告

組織図・西濃地区、中濃地区委員が交代しました。旧委員の方にはお世話になりました。

事務局		地区陸協編集委員	
委員長	木下克己	岐阜	河野 康彦
副委員長	原 清隆	東濃	江崎 尚
		西濃	安福 弘典(新)
編集委員	山田 緑 河野 康彦(※兼務)	中濃	小川 秀一(新)
		飛騨	坂谷 幸紀

事業計画

1 広報誌8号を発刊しました。

(2018年度より継続、5月中旬発刊)

・第18回アジアジュニア選手権大会特集・

2018年総括合併号

・岐阜陸協ホームページ掲載

・県内外関係団体等への発送

・会員への配布

2 広報誌9号を発刊します。

・2019年度岐阜陸協事業計画と展望

(7月初・中旬発刊予定)

・岐阜陸協ホームページ掲載

・県内外関係団体等への発送

・会員への配布

広報委員会事業計画の変更点(2019年度9号より実施)

1 広報誌発刊号数の変更

(本年度より年間1号発刊となります)

・年間発刊号数を1号とし、前年度総括・本年度活動計画・展望等を中心にまとめ発刊とします。但し、2019年度は8号にて2018年度活動総括を取り扱うので該当年度活動計画・展望のみとします。

・発刊期日は県選手権開催期日を目標とします。

変更の事由

・経費削減と作成負担を軽減し、内容の充実を図ります。

・原稿執筆者等の負担軽減を図ります。

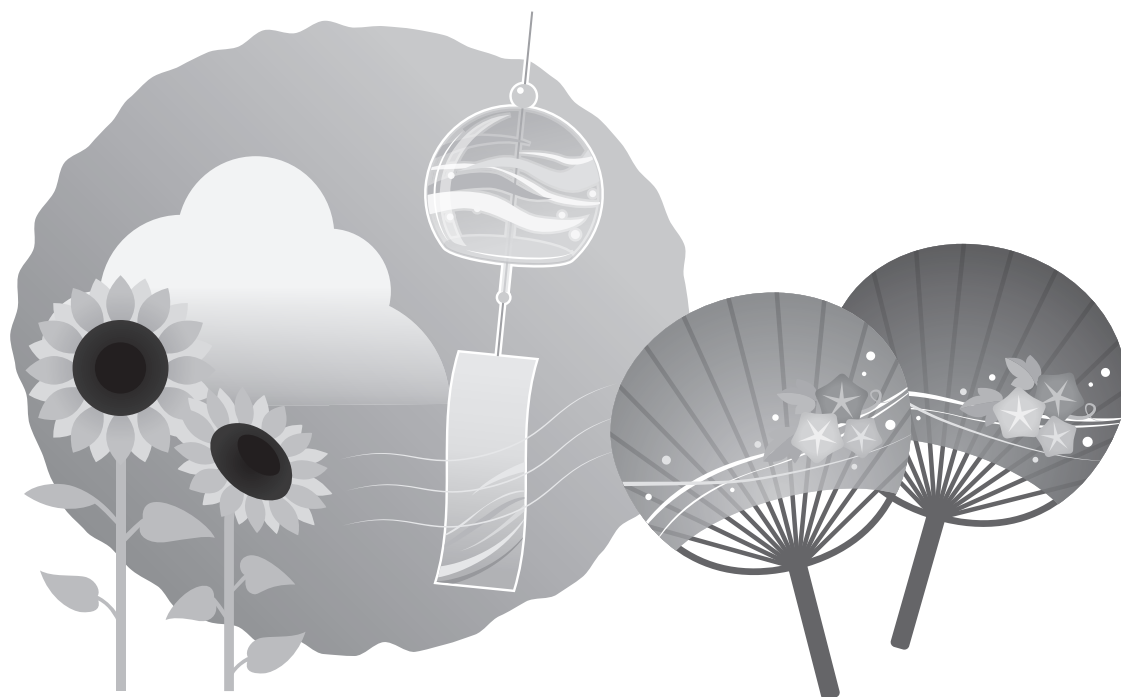
2 広報誌発刊部数の削減(400部発行とします。)

・県内外送付・陸協関係300部、一般会員80部、保存20部とします。

変更の事由

・岐阜陸協ホームページの広報誌掲載形式の変更に伴い、携帯による閲覧が可能になりました。このことにより一般会員への配布部数削減、バナーへの広報誌送付の打ち切りによる部数の削減となります。

(委員長 木下 克己)



関係団体(協力団体)

岐阜県中体連陸上競技専門委員会

「2019年度中体連の取り組みについて」

中体連では、「全日本中学校陸上競技選手権大会」と「ジュニアオリンピック」の2つの全国大会で活躍することを大きな目標と考えて取り組んでいます。強化選手を毎年選考して、定期的に行う強化練習会や合宿を通じて、「技」「体」「心」「生活」「仲間」を大切にし、チーム岐阜(選手・スタッフ)としての意識をもって日々活動しています。

1 強化選手の育成・強化

次年度には、最低でも「全国参加標準記録を突破できる者」、もしくは「それ以上に結果を残せる者」を選考の基準として、「岐阜県強化選手」として選考しております。選ばれた選手は、強化ジャージを着ることができるだけでなく、「強化練習会」「強化合宿」での練習を通じて、県強化スタッフによる各種目での技術指導を中心として、個のレベルアップを図っております。また、昨年度からの継続で原田メソッドを導入し、それをもとに岐阜独自のシステムを確立させ、新たな取組をスタートさせました。「目的・目標設定用紙」「ルーティンチェック表」「日誌」「オープンウィンドウ64」をもとに、目標の明確化、メンタルトレーニングの導入、組織を再建させる原則、個人のやる気を育てるなど、原点に立ち返り、指導に当たることを重点として取り組んでいます。また、個人ファイルを作成し、毎月の様子をブロック長が記入し、心・体・技のどの部分が足りないかが分かるようにして、指導方針を明確にしてきました。

令和元年度は、来年度の全中会場となる「大阪府」で3月16日、17日の1泊2日で強化合宿をしました。自分自身の最高のパフォーマンスを最大限発揮するために、本番会場を下見することは、今後の練習へのモチベーションも上がるため、さまざまな効果があると考えています。

2 県内だけでなく県外の練習会に参加する。

県強化スタッフだけの指導に留まらず、県外の優秀な指導者に指導していただく場も入れております。

11月から始まった強化選手の育成・強化の取組では、関東や近畿など複数回練習会に参加しました。やはり全国のレベルの高い選手との練習や優秀な指導者の考えを学ぶことで、選手だけでなく、指導者のレベルアップも図ることができます。また、課題でもある陸上競技を専門とする顧問がいない中学校の部活動も数多くあります。そういった顧問の先生にも強化練習会に積極的に参加してもらい、普段の部活動に生かしてもらおうと考えています。

3 今後の指導重点

今年度は、スーパースター不在の年となりますが、それでも人材育成を図りながら、全国大会において上位で活躍できる選手の育成をしていきたいと思っています。本年度、大阪府で行われる全中陸上競技大会では、女子のリレー、400m、110mHを中心に上位入賞をめざし、昨年の入賞数男子3、リレー1、合計4の成績を上回りたいと考えています。

(委員長 村井 伴成)

岐阜県高体連陸上競技専門委員会

「令和元年度のスタートにあたって」

【高体連の活動方針】

- 1.挑戦し続ける、逞しい心を持った選手の育成。
 - 2.感謝することを忘れない、謙虚な心を持った選手の育成。
- この二つを大きな指導方針として、取り組んでいきたいと思っています。

【全国高校総体への展望】

本年度の東海高校総体は静岡県開催でした。今年は延べ男子14種目・女子6種目で入賞し全国高校総体の出場権を獲得しました。(平成30年度:延べ男子15種目・女子3種目で入賞)昨年1名だった2年生の入賞が6名に増加し、今年度だけでなく来年度も楽しみな状況です。

東海総体の主な結果は、男子三段跳びでは、優勝した田中大雅選手(市立岐阜商)をはじめ三名が入賞し、男子100mでは加藤慎之介選手(岐南工業)が2年生ながら10秒52(+1.0)の好記録で2位となりました。4×100mリレーでは岐阜聖徳学園が2位、岐南工業が4位と、ともに40秒台の好記録で入賞し、さらなる記録の更新が期待できます。男子5000mの中洞将選手(中京院中京)、400mHの細野颯人選手(岐阜工業)も2位となっており全国総体の入賞を期待できます。女子では市立岐阜商業の安田誉乃香選手(2位)、土田彩加選手(4位)が、40mを超える記録で入賞しました。

本年度、8月4日から沖縄県沖縄市で行われる全国高校総体では、県代表選手の中から一人でも多くの選手が入賞できるよう大いに期待しています。(昨年の入賞数3)

(委員長 沖村 敏寛)

「岐阜県高校総体男子総合優勝を達成して」

岐阜県立斐太高等学校陸上競技部

男子主将 田中 廉治郎

1 飛騨地区初の総合優勝達成

昨年9月に開催された岐阜県高校新人大会に続いて、岐阜県高校総体でも男子総合優勝をすることができ、とても嬉しく思います。また飛騨地区初ということで多くの飛騨の方々にも喜んでいただくことができました。

昨年は岐阜県高校新人大会で男子総合優勝を果たしたものの、東海高校新人大会では惨敗でした。このままではいけないとチームで共通認識を持ち、その後、岐阜県高校総体男子総合優勝・女子総合3位、沖縄IH10名以上出場というチーム目標を掲げ、各個人の練習目標・大会目標を明確にして冬期練習を迎えました。冬期練習は往復走、タイヤ引き、ウェイトトレーニングを中心にやっていました。シーズン中と違い、大会が少なく、モチベーションを持続しづらい部分がありましたが、毎月のウェイトトレーニングMAX測定、コントロールテストで自分たちの成長を感じることで、モチベーションを持続できるよう努めました。途中、冬期練習の目標を達成するためにがむしゃらに取り組む、すぐに冬期練習が終わってしまったと思う仲間もいれば、練習がつらく目標を見失いそうになる部員もいましたが、全員で冬期練習を乗り越えられたことが自分たちの大きな力になったと思います。

県総体が近づくにつれ故障者も増え、自分たちの弱さを感じると同時に不安も大きくなりました。大会当日になっても不安は残っていましたが、冬期の辛い練習を乗り越えたことを信じ、試合に向かうことができました。また当日は仲間の応援を部員全員で行うことができ、斐太高校陸上部が1つになったことを実感できました。



2 取り組みの課題

今回、確かに男子総合優勝を果たしましたが、斐太高校陸上部はまだまだ見直すべき点が多いチームだと感じています。斐太高校は進学校で、朝練なし、長期休暇も半分の日にしか活動できず練習時間が限られ、さらに雪の多い地区のため冬期練習でできることも限定されます。そのため、限られた環境・条件の中で週4～5日、1日2～3時間の練習をいかに効率よく取り組むかがポイントとなります。個々が理想とする動きを動画で見てイメージし、日頃の自分の動きとどう擦り合わせていくか、その動きを可能にするための体づくりや専門練習の方法を本やインターネットで調べたり、人に聞いたりすることが効率よく記録を伸ばすための最善の方法だと考えました。またその過程で学ぶ姿勢、方法、礼儀を身に着け、周囲から応援してもらえたり、かわいがってもらえる人間になり、競技を辞めた後でもやってきたことを将来に活かしていきたいと考えています。

高校生として陸上競技ができる時間は限られていますが、斐太高校と同じような環境・条件でも他県には全国で総合優勝するチームもあります。現状に満足することなく、また昨年の東海高校新人大会での悔しさを忘れず、目標の沖縄IH10名出場を目指して頑張ります。

3 活躍した選手たち

優勝

●1500m・3000mSC 山下 唯心

●高跳 田中 廉治郎

第2位

●110mH 浅田 晃央 ●400mH 島尻 裕太郎

●3000mSC 清水 宝

●4×400mR 野村—島尻—稲田—山腰

第3位

●400mH 浅田 晃央

第4位

●400m 野村 航史 ●走高跳 柴田 龍之介

第5位

●800m 山腰 陸斗 ●400mH 稲田 幹大

第6位

●8種競技 田上 龍

4 東海・全国大会へ向けての抱負

東海新人大会で経験したように東海はかなりレベルの高い地区だと思います。しかし沖縄IH10名以上出場するという目標を達成するためにこれまで努力してきました。そのため、自分に自信を持ち精一杯戦いたいと思います。そして、丁寧に指導して下さった小藪先生をはじめとする顧問の先生方、コーチの清水さん、毎回治療をしてくださる永田指圧マッサージの永田さん、高山スポーツ接骨院の花川さん、いつも応援してくださる保護者の方々、そして切磋琢磨してきた仲間への感謝の気持ちを忘れず戦ってきたいと思います。

そしてこれからは東海総体、沖縄IHだけでなく、全国選抜、U20・U18日本選手権などの全国大会に少しでも多くの人が出場できるよう練習に励んでいきたいと思っています。



「岐阜県高校総体女子総合優勝を達成して」

岐阜県立岐阜商業高等学校陸上競技部

女子主将 杉山 友梨

4年連続26回目の優勝達成

私たち岐阜県立岐阜商業高等学校陸上競技部は、日々、自己ベスト更新を目標とし、学校とメモリアルセンター長良川競技場のサブトラックで、練習に励んでいます。

昨年と比べ、2年生19人、3年生16人と部員数が減少したため、個々のレベルアップが必要となってきました。そのため、夏に向けて、厳しい冬季練習を行ってきました。短距離・長距離・跳躍・投擲、それぞれのブロックごとに、全員で切磋琢磨しました。また、各自で強化すべきメニューを考えて練習をし、1日1日を無駄にしないように励んできました。4月には1年生10人が加わり、新チームで迎えた今年の岐阜県高校総体では、4年連続、26回目の優勝を勝ち取ることができました。

100mでは、河村真凜が2年連続優勝、800mでは加藤愛結が、1500mでは加藤若葉が優勝、走り幅跳びでは森彩乃、岩崎有花が1・2位に入賞しました。また、他の種目でも、多くの選手が入賞することができました。

トラック得点・フィールド得点共に2位、混成得点3位でしたが、総合得点で1位を取ることができました。まさに、全員で勝ち取った優勝で、大変嬉しかったです。また、連続優勝を私たちの代で止めることなく、次の後輩たちに繋ぐことができ、「ほっと」した気持ちもありました。

東海・全国大会を目指して

6月21日から23日に、静岡県のエコパスタジアムで東海高等総体が行われました。東海高校総体に向けて、今一度、自分の課題を見つけ、技術練習や走り込みなどに一生懸命取り組み、6位以内入賞を目標に頑張ってきました。17人で挑んだ東海総体でしたが、「東海を制する者は全国を制する」と言われているように、東海の壁は厚く、予選・準決勝を突破することは、大変困難でした。そんな中、青井美咲が5000m競歩で3位に、森彩乃が走幅跳びで5位に入賞することができました。

8月4日から沖縄県のタピック県総ひやごんスタジアムで全国高校総体が行われます。それまでの時間を有効に活用し、これまで練習してきたことを全国の舞台で全て発揮し、更に上を目指して欲しいと思っています。チーム一丸となって、二人を応援したいと思います。また、インターハイに出場できなかった人達も、ここで終わりではないので、次の試合に向けて頑張りたいと思います。



各地区陸協報告

岐阜地区陸上競技協会

【2019年度のスタート】

平成31年5月より令和元年が始まり、岐阜地区6市2郡の活性化・競技力の向上・普及を目指し、役員が改選されました。

2019・2020年度役員

役 職	氏 名
会 長	杉山 美生
副会長	小森 博昭・高木 豊
理事長	正村 菊雄
副理事長	久留 一博・原田 憲一
総務理事	河野 康彦
会計理事	河島 正弘
理 事	松浦 正泰・岡部 孝・近藤 清弘・吉村 優治・和田 全弘・田中 里枝 脇田 篤実・筒井 学・宮崎 豊・須川 信二・森 一男・林 陵平・川瀬 巧 太田 和憲・宇佐見 成司・山下 和行
幹 事	浦野 昇三・田中 敏弘

2019・2020年事業計画

日 時	事業名	場 所
5月5・6日(土・日)	岐阜県高等学校総合体育大会岐阜地区予選会	長良川競技場
6月16日(土)	岐阜地区中学校総合体育大会	長良川競技場
9月9日(日)	岐阜地区陸上競技選手権大会	長良川競技場
10月20日(土)	岐阜地区高等学校総合体育大会	長良川競技場
10月20日(土)	岐阜地区中学校駅伝競走大会	四国山香りの森公園
12月8日(土)	岐阜地区高等学校駅伝競走大会	長良川河川道路
3月10日(日)	理事会	未定

東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、世界で活躍する選手が増え男子100mの日本記録の更新と明るいニュースが入り、4×100mRも活気づいています。また、岐阜地区を見てみると、全国大会で活躍してくれる選手が男子400mの岩垣勇司選手(岐阜聖徳高)・男子400mHの細野颯人選手(岐阜工高)・女子100mHの市川紗羅選手(市岐阜商)・女子棒高跳の間宮里菜選手(アクトス)・女子400mHの吉田佳純選手(駿河台大・県岐阜商出)・男子円盤投の山下航生選手(九州共立大・市岐阜商出)・男子砲丸投の稲福颯選手(中京大・市岐阜商)がいます。今後の活躍に期待したいと思います。このような選手が多く出るように、小学生の埋もれている逸材の発掘、中学高校の強化、各都市の活性化をあげ関係団体と協調しながら取り組みたいと思います。

(委員長 正村 菊雄)

東濃地区陸上競技協会

「新年度のスタート」

5月1日より令和の時代が始まり、新しい希望と期待を持たせるスタートでありました。東濃地区陸上競技協会も様々な課題を有してはいますが、新しい時代に向けて新たな気持ちでスタートしました。

新年度の体制

役 職	氏 名
会 長	高木 貴行
副会長	松原 晃正・加藤 正
顧 問	小池 良司・山内 浩・丸山 充信・中島 安博
参 与	羽柴 文夫・神戸 庫次・柴田 活司・伴野 茂・江崎 尚・関田 元久・加藤 輔之
理事長	安藤 功二
副理事長	西垣 幸司・上倉 慶三
庶務・会計 駅伝庶務 監事	長谷川 悟 成瀬 哲也 松井 辰徳・安藤 剛
各市理事長	多治見市:西垣 幸司 土岐市:澤田 和彦 瑞浪市:小木曾 謹也 恵那市:額根 功 中津川市:金子 肇

議題・重点

- 1.審判員の発掘・養成…若い人材、ジュニア指導者の養成
- 2.競技力の向上……ジュニア指導者・中学・高校との連携
- 3.東濃陸協主催事業の充実
- 4.審判講習会との抱き合わせでの救命救急講習会の継続
- 5.中山道東濃駅伝の継続

(1) コース変更による新しい課題への対応

(2) 交通事情緩和への課題

多くの課題が山積していますが協会員の知恵と行動力を集結して、事業、大会に参加する選手のために力を注ぎたいと思います。



今年度の審判講習会



今年度の救命救急講習会

(理事長 安藤 功二)

西濃地区陸上競技協会

「2019年度のスタート」

1 西濃陸協総会について

令和元年度西濃地区陸上競技協会総会が5月31日に大垣市で開催されました。

主な内容は下記の通りです。

【令和元年度事業計画】

日 時	事業名
5月6日	強化普及記録会(浅中)
5月31日	総会(天近)
6月8日	西濃地区中学(浅中)
6月15・16日	第65回西濃陸上競技選手権(浅中)
7月27日	創立65周年記念祝賀会(クインテッサホテル)
9月16日	強化普及記録会(浅中)
9月29日	西濃地区小学生記録会(浅中)
11月10日	2019いびがわマラソン(揖斐川町)
その他	いびがわマラソン反省会(未定)・セントジョージマラソン視察派遣 小・中学生陸上教室(浅中、毎月1回開催)

【令和元年度 西濃地区陸上競技協会役員】

役 職	氏 名
顧 問	山本 敏彦
会 長	田口 利正
副会長	松原 正則・久保田 智也
理事長	牧野 安孝 (大垣陸協常務理事)
常務理事	臼井 隆(大垣陸協理事)・石原 好之(大垣陸協常務理事) 石田 仁(大垣陸協理事長)・安福 弘典(大垣陸協理事) 土屋 雅敏(大垣陸協副理事長)
理 事	勝木 秀和(大垣陸協理事)・高木 敏夫(大垣陸協事務局長) 高橋 良司(大垣陸協理事)・高橋 雅久・坂井田 昌弘 谷河 恵治(大垣陸協理事)・清水 裕晶・北野 孝英・ 片田 泰郎(大垣陸協理事)・森 光弘(大垣陸協理事)・酒井 俊輔
理事・監事	酒井 清司(大垣陸協理事・監事)・野川 光義(大垣陸協理事)
事務局長	馬場 保(大垣陸協常務理事)

2. 西濃選手権が開催される

第65回西濃陸上競技選手権大会が6月15・16日の2日間、浅中公園陸上競技場で開催されました。地区外、県外からの選手も含め1200人を越える選手が参加しました。大会当日は、風が強く途中雨が降るような悪天候ではありましたが、大会新が21、大会タイが1つ生まれました。

大会に協賛頂きました企業様、大会を支えて頂きました競技役員、補助員の皆様方、ご協力有難うございました。

3. 西濃陸協創立65周年記念祝賀会について

7月27日(土)大垣市クインテッサホテルにおいて開催の予定。



(理事長 牧野 安孝)

中濃地区陸上競技協会

「2019年度のスタート」

1 長距離ナイター記録会開催

今年度は、昨年ナイター照明の関係で実施できなかった長距離ナイター記録会を夏場に予定しております。これは、冬季のロードレースに向けて夏季合宿の一環として開催します。また、中濃地区の選手のための長距離記録会も予定しております。選手にタイムトライアルの機会を多く与えることにより、競技に取り組む姿勢が変わっていかばと考えております。

2 指導者・審判員育成

組織強化については、各ジュニアクラブの中には10年以上活動している団体もあり、社会人となったクラブ出身者に声を掛けながら、指導者の育成や審判登録者の増を目指します。また、高校、大学での陸上競技経験者やマラソン愛好家にも声掛けをし、一人でも多くの関係者を増やし組織の充実を図っていきます。

3 中濃駅伝大会開催

メイン事業の中濃駅伝大会は、今年度34回目を迎えます。第1回大会では、一般と高校の男子の部門だけでしたが、一般37チーム、高校7チームの44チームが参加しており、一般男子の部は、各地域の陸上クラブのチームや一般企業の参加が多くあり大変盛り上がりしておりました。今では女子の部や中学校の部などを増やし参加チームは以前と同じくらいありますが、一般の部門については、限られたチームの参加のみとなっており寂しい思いをしております。多くの企業が参加したい魅力のある駅伝大会になるよう開催時期や開催場所、部門別などを今後検討し、更なる競技人口の増加に努めていきます。

(広報 小川 秀一)

飛騨地区陸上競技協会

『令和時代における願いと使命』

スポーツの振興には、「トップの育成」と「底辺の拡大」という二つの方向があります。言い換えると「強化」と「普及」です。私たち飛騨地区陸上競技協会の願いもまさにそこにあります。「飛騨地区からオリンピックを、老若男女の陸上愛好者の増加を」、これが私たちの大きな願いです。

近年、『岐阜県中学校駅伝』では、飛騨地区の中学校が上位の過半数以上を占めています。また、今年度は『岐阜県高校総体』で、岐阜県立斐太高校の男子が総合優勝を果たしました。このように、飛騨の若者たちがいい結果を残すのはなぜでしょうか。これは、決して偶然の産物ではありません。「素質のある少年少女が多いこと、優秀な指導者がいること」は、その大きな要素となっています。飛騨人の“純朴で粘り強い”といった気質も関係するでしょう。私は、それらをひっくるめて「飛騨という風土の持つ力が根底を支えている」と感じています。「それは何だ。」と問われると少々説明に困りますが、厳しく長い冬を乗り越えて春を待つからこそ、心の中に次へのエネルギーが生まれました。厳しくも豊かな自然環境と共に生活する中で、粘り強い気質が生まれました。飛騨には独自の伝統や文化が色濃く残り、それらを受け継いできた地

域との関係も濃密で、自然にふると飛騨を誇りに思う心が育ちました。飛騨地区の指導者は、こうした地域を大切にしながら指導に当たってきました。私自身、これから飛騨という地域を誇りに思う心を持って、若者と関わっていきたくと思っています。

平成の30年間で、陸上競技に関する意識が随分変わりました。それまで、マラソンやロードレースは一部の愛好家のものでした。それがしだいに健康増進の手段となり、町おこしの手段になり、若者のファッションにもなってきました。飛騨地区陸上競技協会にとっても、「こうした時代の変化と無関係でいいのか、どのように付き合っていけばいいのか」ということが大きな課題です。当協会の器をもう少し大きく広げて対応していく必要があらうかと思っています。

飛騨地区陸上競技協会は、これまで「アスリートファースト」を合言葉に運営に当たってきました。令和という時代、価値観の多様化、スポーツの多様化がさらに進むであろうと思われます。また近年、「パワハラ」「薬物」といった問題も顕在化してきました。私たちはこうした時代の動きを捉えつつ、真の「アスリートファースト」の立場に立って、陸上を志す若者を大切にしたいものです。その上で、飛騨という地域の特性を大事にしながら、本来の使命である「強化と普及」に当たりたいと考えています。

(会長 平塚 光明)

『飛騨地区の陸上スポーツ少年団の現状など』

飛騨地区の陸上スポーツ少年団は、現在11少年団が活動中です。その中で、最も早く設立された少年団は、昭和45年に活動を開始しています。当地区は、県内で最も広大な区域を有し、北と南では気象状況も異なり、それぞれの地域の特性を生かしながら工夫した活動が展開されています。

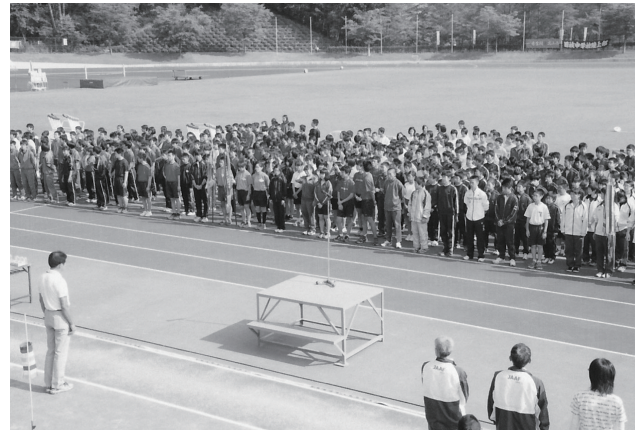
当地区では、平成7年から7月に『飛騨地区陸上スポーツ少年団交流会』という大会を開催しています。この交流会は、地区の陸上スポーツ少年団員全員が一堂に会し、陸上競技を通じて友情を交換し、楽しく陸上競技に親しむことを目的として実施してきました。

また、この交流会を開催することになったきっかけが、平成5年12月から開催している「指導者懇談会」です。この懇談会では、各大会における課題や問題点などについて意見交換したり、各少年団が抱える問題などについて情報を共有したりしながら、解決に向けての意見交換などを行っています。この懇談会で、飛騨地区の各少年団が単に競技で競い合うだけでなく、お互いに仲良くなれるようなそんな大会を開催してもらいたいという意見が出され、それを実現したのが交流会となりました。平成12年からは春と秋の2回開催し、より充実した内容となっています。

懇談会には、各少年団の指導者と保護者の代表も参加して意見交換し、懇談内容は必ず全少年団に周知しています。この懇談会で、大会運営上の改善点や大会準備への協力の仕方、参加団員の心構え、大会参加団員ファーストへの配慮など、今までに17項目以上についての確認や申し合わせが実現できました。このことは、少年団員を陸上競技を通じて健全に育成していくために何が重要かということ、指導者、また保護者や関係者が同一の認識を持ち実践していくために大変重要な役割を果たして

おり、飛騨地区の特徴的な活動として胸を張れるものと考えています。

「継続は力なり」と言いますが、まさにこのことを実証する取り組みであり、今後も永く続けていきたいと考えています。世代が代わり、各少年団の責任者や指導者が交代しても、この取り組みを継続することで飛騨の少年団員は、どこで活動しても健全に育成されるものと確信しています。



(副会長 関 善広)



次号紹介

2020年7月初旬・中旬発行予定です

編集委員

木下 克己	原 清隆	山田 緑
河野 康彦	江崎 尚	小川 秀一(新)
安福 弘典(新)	坂谷 幸紀	